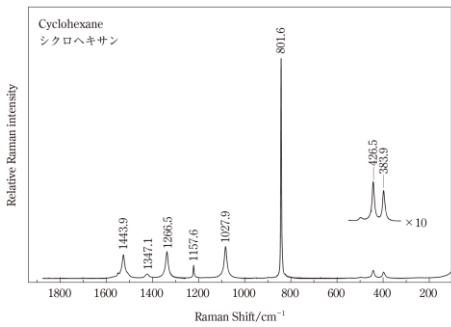


頁	行	誤	正
2	6行目	60種の	60数種の
2	18行目	1928年2月26日	1928年2月16日
3	17行目	Ramanは1928年当時、インドの税務関係の役所に勤務しており、職務の傍ら行っていた研究でこの大きな発見をした	Ramanは1928年以前の一時期、インドの税務関係の役所に勤務しており、職務の傍ら研究を続けてこの大きな発見をした
20	本文最下行	$k_1 - K = k_2 - 2k_1$ の成分が	$k_2 - K = 2k_2 - k_1$ の成分が
31	11行目	によって1個生成する過程を	によって1個消滅する過程を
35	8行目	また式(2.2.43)の	また式(2.2.42)の
47	11行目	a_{pg}	$ a_{pg} ^2$
57	図3.2.2	試料 (散乱断面積 $10^{-28} \sim 10^{-35} \text{ cm}^2$)	試料 (散乱断面積 $10^{-28} \sim 10^{-35} \text{ cm}^2$)
57	下から 7行目	BBO ($\beta\text{-BaBO}_3$)	BBO ($\beta\text{-BaB}_2\text{O}_7$)
171	酢酸エチルのスペクトル ・一番左のピークの波数の	1736.9	1706.5
172	シクロヘキサンのスペクトル		 スペクトルの形、ピーク波数は同じですが、横軸の値に誤りがあります。
175	1,2,3,4-テトラヒドロナフタレンのスペクトル ・左から4つめのピークの波数の	1030.9	1430.9
179	ヘプタンのスペクトル・右から8つめのピークの波数の	888.3	852.9